

2026年 5月14日 (木)

第2826回

イチゴ狩り例会

会場：赤崎休憩舎

能都ロータリークラブ 運営方針

「百聞不如一見」

よいことのために
手を取りあおう

RI会長テーマ〔フランチェスコ・アレッツォ会長〕

「よいことのために 手を取りあおう」

第2610地区テーマ〔小山英一ガバナー〕

「みんなで参加しよう みんなで行動しよう」

【青少年奉仕月間】

司会 船田S・A・A

- 開会点鐘 12:30
- 再開の握手 (感染防止のため割愛)
- ローターソング 「奉仕の理想」
- 食事と交歓

■ 委員会報告

出席報告 大森委員

ホームクラブ 23/37名中 62.16%

メイク補正後 100%

ニコニコBOX 本藤委員

3件 3,000円

イチゴ狩り例会 社会奉仕委員会

能登町布浦の赤崎いちご園「進出(しんで)園」で、宇出津小学校と鶴川小学校の6年生27人がイチゴ狩りを楽しみました。

赤崎いちご園では、柔らかく甘みの強い品種「宝交早生(ほうこうわせ)」が栽培されており、子どもたちは真っ赤に色づいた果実を思う存分味わいました。



中には92個も食べた児童がおり、その食べっぷりに会員一同驚かされました。



▲進出さんは模型を使って、ヘタの取り方を説明した

町の特産品を子どもたちに知ってもらいたいという思いからこの企画を毎年実施しています。赤崎いちごは非常に甘く評判ですが、柔らかいため流通には向かず、



まさに“現地でこそ味わえる特産品”です。最後に、朝倉学会員らが児童にお土産も渡し、笑顔あふれる例会となりました。

ロータリー知識クイズ45

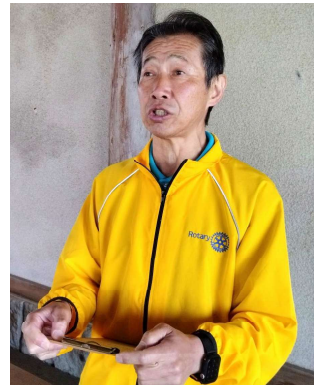
Q42. 日本語は国際ロータリーの公式用語ではない。(○か×か)

【答えは次回の週報に掲載】

会長の時間 高田清保 会長

イチゴ狩り例会に合わせ、イチゴの歴史と地域の赤崎いちごについて紹介します。イチゴは石器時代からヨーロッパやアジアで食べられており、現在の栽培品種は18世紀のヨーロッパで誕生しました。その後19～20世紀にかけて品種改良が進み、世界へ広がりました。日本へは1830年代にオランダ船が長崎へ持ち込まれ、1898年には園芸家・福羽逸人がフランス品種「ゼネラル・シャンジー」から10年以上かけて国産初の品種「福羽」を育成しました。これは「とちおとめ」「あまおう」など多くの人気品種の先祖にあたります。現在、日本には約200以上の品種が存在し、各地でブランド化が進んでいます。

赤崎いちごは「宝交早生(ほうこうわせ)」という品種で、甘みが強く果肉が柔らかいのが特徴です。傷みやすいため長距離輸送には向かず、主に観光農園での摘み取り用として消費されています。栽培は昭和30年代後半に始まり、当時北陸3県で露地栽培を行っていたのはこの地区だけでした。最盛期には30軒以上の農家がありましたが、高齢化などにより現在は減少しています。イチゴに限らず、従事者の高齢化で存続が危ぶまれる事業は多く、ロータリークラブとして何か支援できることを考える必要があるのかもしれない。



幹事報告 池岸雅弘 幹事

6月4日は夜間例会とし、昨年秋の叙勲で「旭日単光章」を受章された酒屋利信会員と、今年春の叙勲で「旭日小綬章」を受章された持木一茂会員の叙勲のお祝いを行う。



▲酒屋会員



▲持木会員

〔田原RC・別所源太郎会員が来訪〕

東三河分区の田原RCより別所会員が13日に能都RCを訪問されました。2月14日に開催された東三河分区IMIに三宅一宏会員が参加したご縁から、「震災から事業再開までの経緯を聞きたい」との申し出があり、クラブとして懇談の場を設けました。

高田清保会長、持木葉子直前ガバナー補佐、鍛冶武司会長エレクト、川端宏二会員、三宅一宏会員が出席し、震災当時の状況や地域の復旧に向けた取り組み、クラブとしての活動などについて意見交換を行っています。



◀左から2番目が別所会員

ロータリー知識クイズ45 Q41の回答

正解は○

週報作成：能都ロータリークラブ (2025-2026年度)

会長 高田清保

幹事：池岸雅弘

公共イメージ委員長：五田秀綱

〈設立〉 1967年6月3日

〈認証〉 1967年6月23日

〈例会日〉 毎週木曜日 午後12時30分 点鐘

〈例会場〉 能登町商工会館2階

〈事務局〉 〒927-0433 石川県鳳珠郡能登町字宇出津ヲ字1-12

TEL 0768-62-0777 FAX 0768-62-3435

